

Captain English Course I, II Revised

単語指導はこうしたい!



平尾一成

私はこの仕事に就いて25年になるが、「先生、単語ってどうやったら覚えられるの?」という言葉をとくさんの教え子から聞いた。これまでに4つの高校で教鞭を取ってきたが、単語に関する生徒の悩みは共通しているようだ。同僚の先生方と話していても最後には「英語はなんと言っても語彙力でしょ!」という話になる。私も同感である。どのような学習者に対しても、語彙指導の大切さと難しさは根本的に変わらない気がしている。

インタラクションで単語のインプット

この *Captain English Course I Revised* という教科書はさまざまな工夫が凝らされていて、動機の低い生徒たちに無理なく英語学習が行えるようになっている。なかでも、私がまず興味を引かれたのは〈Get Ready〉の〈Matching the Key Words〉という活動である(レッスン3から設定されている)。

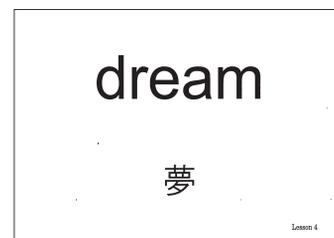
Lesson 4 を例に取り、生徒への簡単なアプローチを述べてみることにする。

教科書を開けずに前を向かせ、「フラッシュカード」(指導用 CD-ROM の中に収録)の dream の日本語の部分を取り返して黒板に貼る。文字の色を青などの爽やかな色に変えたほうが良いだろう。色のイメージは記憶の助けになる。そして、「What's 'dream' in Japanese?」と尋ねる。もし反応の良い生徒がいて「夢!」と答えが返ってくれば、「Good!」と言ってあげよう。大袈裟にならない程度に reward (ほめ言葉) を与えることで、生徒の積極性を育て、クラス全体の集中力を

保つことができる。もし答えが出なくても、ゆっくり日本語の部分を見せて生徒に意味をつかませる。次に、graduation に関して同じように行う。ただし、このような新出単語は、生徒と一緒に数回の発音練習を必ず行う。

ここで、生徒の考えを求める質問をする。「What is your dream after graduation?」この段階で黒板には、graduation と dream のカードが貼られているので、生徒は2つの単語を結び付けてネットワーク化する。もし理解不可能なら「卒業後の夢は?」と日本語を添えてもよい。そして、このカードの周りにマッピングを利用して彼らの夢を単語で書いていく。もし日本語で「大学!」と返ってくれば college のカードを黒板に貼り、dream, graduation と結び付ける。できるだけ多くの生徒を指名して考えを言わせたいものだ。

この後には、KONISHIKI さんの写真、あるいは自作の絵などを用いてオーラル・インタラクションをしてもよい。一通り終わったところで教科書を開けさせて〈Get Ready〉の〈Matching the Key Words〉に取り組ませる。ストップ・ウォッチで時間を計り、生徒に緊迫感を持たせるようにする。この活動の正答数を記録させれば、生



フラッシュカード(キーワードを提示するのにも使える)

徒が真剣に取り組むのではないだろうか。私の場合、単語テストの正答数は単語マイレージカードというものに記入させている。継続的に正解数を記録すれば、生徒は自分の成果を具体的な数値として見ることができる。正答数ナンバー・ワンの生徒には、年間最優秀賞を贈ることにしている。

フラッシュカードで新出単語の指導

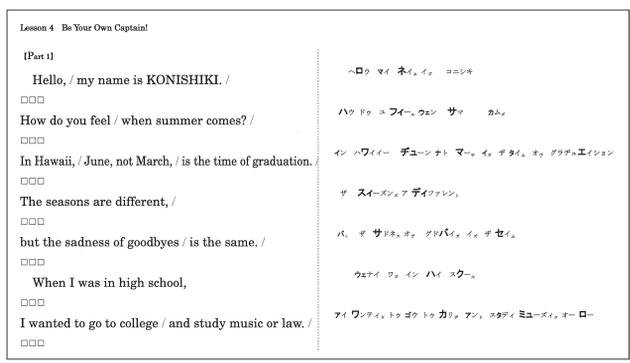
今や高校でもフラッシュカードを使っている先生方は多い。「中学生みたいだ」と思わずぜひ使ってほしい。私の生徒に尋ねてみたところ、「フラッシュカードは単語の記憶に役立つ」と言う声が圧倒的に多い。記憶のメカニズムから考えても理にかなっている。

フラッシュカードの利用法は生徒のレベルに合わせて数種類考えられるが、段階的な指導を心がけたい。単にカードを見せて英語を言わせるなどの他に、以下に私の考えるフラッシュカード利用法を述べる。

- ①単語を見て発音することが難しい生徒には、日本語を削除して、発音をカタカナで書いてみる。まず単語の読み方だけをそのカードで練習する。カタカナと単語をマッチさせるワークシートを作れば個人ペア練習ができる。
- ②カタカナと日本語をマッチさせるフラッシュカードに作り変えることもできる。同じものをリスト形式でワークシートにしておけば、ペアで練習できる。
- ③日本語の部分だけを切り離して黒板に貼っておき、順番に単語のカードを見せていき正解を当てさせる。単語の導入としては大変アクティブなものになる。
- ④フラッシュカードを日本語と英語に切り離してペアか4人グループでマッチングさせる。

教科書書き込みシートの活用一工夫

この教科書のもうひとつの特徴はカタカナ発音



書き込みシートが音読トレーニング用紙になる

が利用できることだ。日本人学習者にはカタカナ表記での発音指導は有効だと考える教師も少なくはないはずだ。「教科書書き込みシート (カナつき)」(指導用 CD-ROM の中に収録) を横向きに設定して、カタカナと英文を左右に並べ英文の下に小さなボックスを3つほど付けておく(読めた時に自分でチェックを入れる)。こうしておけば、左右2つ折りにして個人音読トレーニング用紙として使える。教師と一緒に数回練習した後、英文だけを見て自分で音読練習することが可能だ。もし、一人でやれないならば、ペアでやらせてみる。先ほどふれた英文の下のボックスを利用してパートナーに発音のチェックをさせるのだ。ペア練習ではあまりプレッシャーをかけず生徒に時間をたっぷり与えて楽しく練習させて欲しい。2人の共同作業をたくさん体験すれば、英語学習におけるパートナーの存在価値に気付いてくれるはずだ。教師はこの活動の間、教室をモニターして歩き、困っている生徒には援助をする。上手な生徒には言葉で褒めたり、ハンコを押したりする。やはりここでも reward は生徒の動機付けに大きな効果を発揮する。

また、この横向き2つ折りシートを利用して個人のディクテーション練習もできる。やり方は簡単で、カタカナだけを見て英文を再生させるのである。英文を再生して書いた後は、ペアで交換して訂正をさせるのがよいと思う。

(ひらお かずなり・大阪府立寝屋川高等学校教諭)